



○鉄道施設の維持管理

安全運行を支えるために、車両や線路、信号設備、電力設備等の鉄道施設について、技術部門が技術基準に基づいて計画的に点検・保守を行い、適切な状態を維持しています。鉄道施設の根幹となる土木構造物については、日常巡回、法令に基づいて2年ごとに行う通常全般検査、20年ごとに行う特別全般検査及びそれらの結果に基づく補修・補強を確実に実施しています。土木構

造物の8割以上を占めるトンネルについては、造り替えが困難となるため、長寿命化についての研究に取り組んでいます。例えば、劣化の進行のリスクが高い、地下水に塩分が含まれる区間に対して、外部有識者の指導を仰ぎながら、詳細調査、劣化診断、将来予測等を行い、維持管理レベルを高め、トンネルの長寿命化を図っています。

○安全運行の管理

列車の運行に際し、駅・総合指令所等の連携のもと、駅間又はホーム上それぞれにおいて、駅係員・乗務員(運転士・車掌)が

お客様の安全確認を行い、必要に応じて総合指令所の指示を受け、安全・安定輸送に努めています。

Topics

ホームドア全路線全駅設置計画を決定

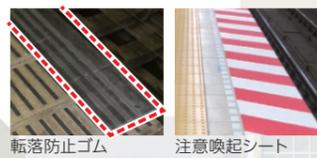
東京メトロでは、2016年4月の半蔵門線九段下駅におけるベビーカー引き摺り事故や同年8月の銀座線青山一丁目駅における盲導犬をお連れのお客様の転落事故を踏まえたホーム上の安全対策の1つとして、2017年6月に全路線全駅のホームドア設置計画を決定しました。全てのお客様に安心してご利用いただけるよう、これまでの設置予定を前倒しし、2024年度までに1日10万人以上のお客様がご利用になる駅への整備を完了させ、2025年度までに全駅にホームドアを整備することを目指します。東京メトロでは、引き続き一日も早くホームドアを設置できるように努めていきます。



ホームドア設置後のホームの状況(浅草駅)

ホーム転落・接触の防止

ホームからの転落・列車との接触事故を防止するため、ホームドア(1)、可動ステップ、転落防止ゴム、注意喚起シートなどの設置を進めています。



火災対策

韓国大邱市地下鉄火災後に改正された火災対策基準に基づき、大火源火災に対する安全性を向上させています。



浸水対策

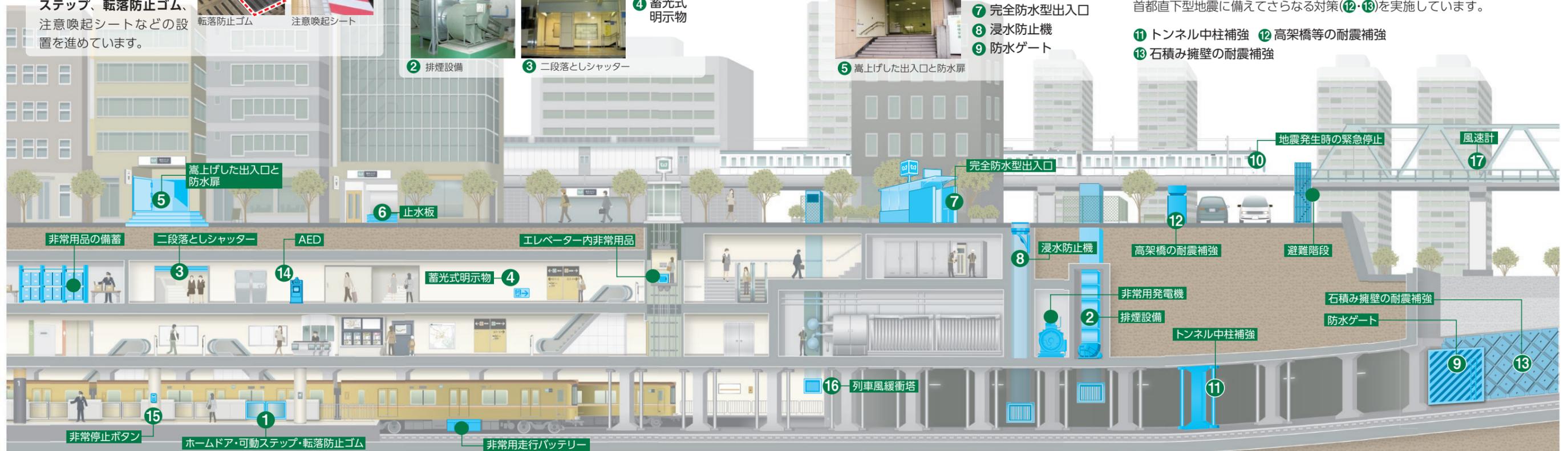
駅出入口等の改良、浸水エリアを踏まえた大規模浸水対策を実施しています。



地震対策

東京メトロ沿線の6か所に設置している地震計で震度5弱以上を検知したときは、**全列車を自動的に緊急停止(10)**させます。また、国の通達に基づく対策(11・12)は完了し、それらに加え、首都直下型地震に備えてさらなる対策(12・13)を実施しています。

- 11 トンネル中柱補強
- 12 高架橋等の耐震補強
- 13 石積み擁壁の耐震補強



AEDの設置

急病人などへの救急救命活動を円滑に行えるよう、東京メトロの全ての駅と事務所などにAED(自動体外式除細動器)(14)を設置しています。

非常停止ボタンの設置

お客様の転落や不審物の発見などの緊急事態に備え、電車を緊急停止させる**非常停止ボタン(15)**をホーム上に設置しています。



列車風対策

お客様の転倒事故などを防止するため、トンネル内から地上部に風を放出する**列車風緩衝塔(16)**を設置して風速を低減するなどの対策を行っています。

強風対策

風の影響を受けやすい湾岸部や橋りょうに**風速計(17)**を設置し、風速に応じた運転規制を行っています。